見直しのポイントを考えるにあたって(まとめ)

【拡充候補となる事項】	・歩行者・自転車利用 環境整備 ・踏み切りの解消 ・活力の向上 (産業を支えるまち づくり)	・生活拠点の形成	・防災・避難対策・防犯、交通安全	< 新たな課題> ・ 低炭素型まちづくり	・水とみどりの保全・活用・創出
エ 市民等の意向・評価	 ■施策の評価 (資料5 P.13,14) 満足度が低く、重要度が高い項目 歩道の整備 踏み切りの解消 身近な雇用の創出 	生活拠点の形成施設・店舗がリアリー化スポーツ・医療・福祉施設等の整備	自然災害への安全性 避難の安全性 死角・暗さの解消 安全な交通環境	省エネ・省資源のまちづくり	満足度・重要度とも高 評価の高いもの 水循環の確保 ⇒ 角沢湧水群 湧水の保全・親しめ 中外居住者 る川づくり 中水居住者 様木林の保全・活用 ⇒ 水と緑、自然 ⇒ 水と緑、自然 ⇒ 水と緑、自然 ⇒ 水と緑、自然 ⇒ 水と緑、自然 ⇒ 水と緑、自然 ⇒ 黒目川・落台川 ⇒ 黒目川・落台川 ⇒ 黒目川・落台川
	■土地利用方針の達成実感 (資料 5 P.11,12) 実現 ←	大規模団地の再生			農地集落の環境維持 みどり、水の保全・活用、自然と親しめる潤いある環境 みどり豊かで住みよい 戸建住宅地
	■望ましい将来像 (資料5 P.9,10)	医療・福祉、買い物施設 が身近にあり、道路が バリアフリー化された 安心なまち	犯罪や交通事故の外ない 安全で安心して 暮らせるまち		身近な水やみどりと ふれあえる、ゆったり 暮らせるまち
I 人口・社会の動向	 ・都市化が沈静化 ・社会は成熟化 高齢化の進展 (資約5 P. 1, 2) ・大々の価値観が変化 (質の高さ・潤い、地或への関心) ・活力やにぎわいが低下する懸念 ・活力やにぎわいが低下する懸念 	世帯のJ規模化			